

# 私の図書館利用法

三井秀俊（専任講師 証券市場論）

私はまだ教員経験が浅く、高尚なことは書けませんので、私が大学学部・大学院時代に経験した図書館利用法について述べてみたいと思います。

中学・高校生のときに抱いていた図書館のイメージとしては、多くの本や雑誌が整理・分類・保管され、その中から自分が興味のある本や学校の宿題の課題図書などを借りて、読み終わったらまた返す所といった一般的なものでした。しかし大学に入学してみると、それは図書館の利用の一部分でしかないことだと感じました。

大学学部時代に最も図書館を利用したのは、自習室やグループ学習室での勉強です。大学の試験は中学・高校とは異なり、通年授業でも年に1回か2回しかありません。そのため一回分の試験範囲はものすごい分量になります。そのため試験の何日かあるいは何週間前から図書館に通い勉強することになります。自宅での試験勉強も可能ですが、図書館で勉強していると周囲も勉強しているのでやる気が出てきますし、静かで外部からの邪魔が入りません。また、自宅だとテレビやビデオを見たり、試験と関係ない本を読んだり、長期間集中してコンスタントに勉強するには向いていない環境だと思います。また、大学で学ぶ学問レベルは非常に高く、独りで勉強していても手に負えない場合が多々あります。この場合には、グループ学習室で先輩や同級生たちと一緒に勉強すると能率が上がります。また、情報交換の場としても利用できます。特に、経済理論や数学・統計学などは、独りで本を読むよりも正確に理解している人から教えてもらう方が時間の節約にもなります。この種の図書館利用法は、司法試験や公務員試験などの各種試験勉強のときにも有効です。私も大学院の入学試験勉強は図書館でしました。

大学院時代に図書館で一番利用したのは専門誌（学会誌、大学紀要、etc.）の閲覧です。必要な論文・資料などは図書館にあるコピー機でコピーすることができます。大学院生になると自分専用の机と本棚がありますから図書館を勉強する場所としては使用することは減ります。専攻が証券分析（特にデリバティブ）であったため、本となって出版される頃にはもう内容が古くなっていて、頭の整理にはなりますが、論文の参考文献・参考資料にはなりません。大学図書館と市井の図書館の違いはここにあると思います。大学以外の図書館では専門誌はほとんど置いていません。また、洋書についても大学図書館は群を抜いています。大学院の授業ともなると教科書・参考図書は洋書（経済系は英語文献が多い）を使用する機会が多いので図書館に頼ることとなります。大学院生にとっては、大学の図書館を有効に活用しないと一定水準以上の研究をすることは不可能でしょう。

インターネットやコンピューターの発達により、最近では図書館の利用法も様変わりしています。電子ジャーナルは代表的なものでしょう。国内外の世界中の論文が素早く検索でき、簡単にダウンロードすることができます。また、最近ではデータ・ベースの利用ができるようになったことです。日本大学経済学部の図書館では日経NEEDSと契約しているので、図書館のパソコンから各種のデータが容易に入手できます。授業のレポートやゼミのプレゼンテーションや卒業論文・修士論文の作成の際に利用することが多いと思います。

人それぞれ図書館の利用法は異なると思いますが、自分なりに図書館を有効に利用して充実した大学生活を送れるように各自工夫してみてください。